

「気になるあの子」から始まる 授業研究

I なぜ「気になる子」から始めるのか

なぜ全員ではなく、「一人のあの子」を見つめ直すことから始めるのか。
Why start by re-examining "that child" instead of everyone?

一人の子どもの事実を起点とする授業の再構築

「みんな」を主語にする限界

全員を対象にした一斉指導では、静かにしているだけの「つまずき」や、授業参加における潜在的な障壁を見落とし、主体性を引き出しきれない課題がありました。

授業づくりの視点を焦点化

特定の一人を徹底的に見つめ、その子が授業参加しにくい「ハードル」を解消する手立てを実践することで、結果として**クラス全体の学びやすさ**を目指します。
※個別の支援ではなく授業の中での手立て・工夫です。

Ⅱ 校内研究の目的

誰の，何のための校内研究か。

Whose school research is this, and for what purpose?

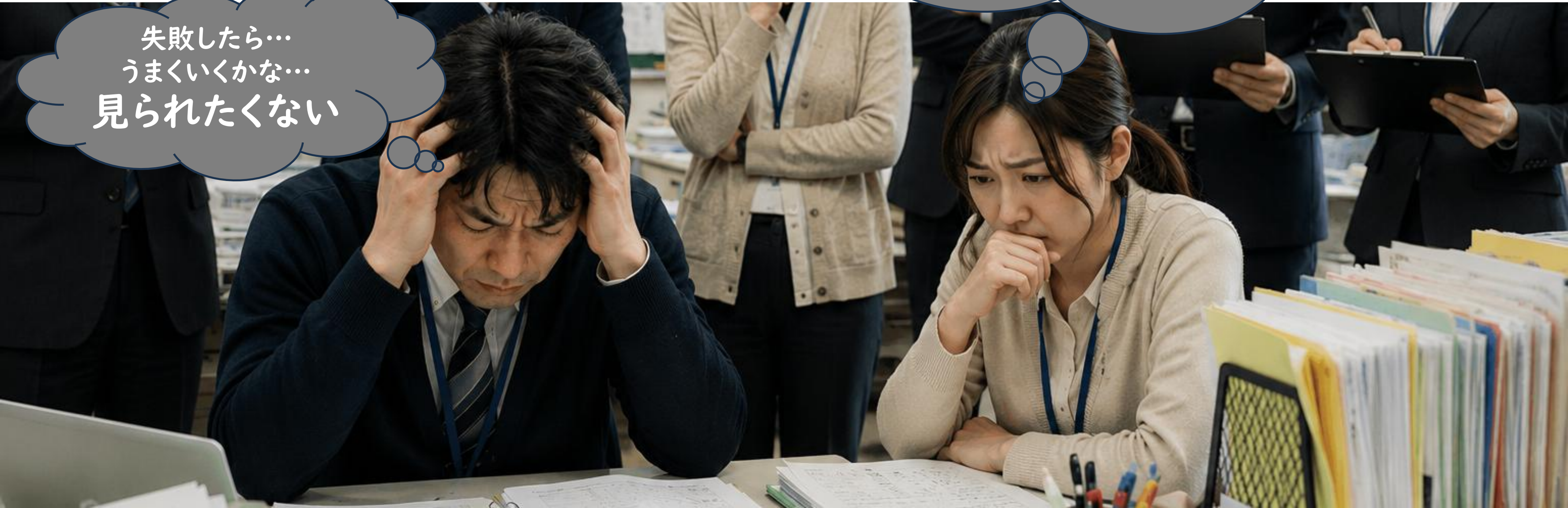
〇〇先生

お願いね



否定されたくない
何を言ったらいいのか…
ベテランの前では…
正解はあるのか…

失敗したら…
うまくいくかな…
見られたくない



協働して子どもの課題を解決すること

① 研究授業は“成功発表会”ではない

うまくいった授業を見せる場ではなく、みんなで授業をよくするための材料を持ち寄る場。

② 授業者を評価しない

見るのは教師ではなく子どもの学び。

③ 「うまくいかなかった」は成果

「わからない」が出た場面こそ研究対象。

④ 協議は“批評会”ではなく“共同研究”

授業者一人の授業ではなく、学校みんなの授業として考える。



子どもを見る目を肥やす

よりも先に
手が肥えることはない。

技はで盗め。

Ⅲ 授業を見る

授業で何を見取るのか。

What do you observe in class?

「**事実**に基づく観察への リフレーム

主観から客観へ

子どもの学習態度を

「やる気がない」

「集中していない」


といった**主観(解釈)**で片付けてしまうと、**具体的で効果的な支援策を検討することが難しくなります。**

「鉛筆を鼻にのせて教室の外を眺めていた」

など、客観的な「**事実**」に焦点を当てることで
授業の真の成果や課題が浮き彫りになります。



- ・主体的に学んでいる
- ・理解できている
- ・協力している

- 
- ・男児がノートを見せながら
○○と説明している
 - ・女児が顔を上げてメモを取り
ながら聴いている
 - ・男児は別の課題に取り組んで
いる

「前のめり」を捉えるポイント

子どもの変容

授業始めとその後の姿(表情・姿勢・行動・言動)が変わったか変わっていないか。



自ら行動する

自分事としてとらえて、教師の指示を過剰に待つことなく、自分なりのやり方で安心して課題にアプローチし始めている。

本気のつぶやき

「あ、わかった!」「え?なんで?」「だってそれは~!」など、自分事にしたり、思考が深まったりする瞬間の言葉。



対話・他者とのかかわり

自分の考えを友達に伝えたくなくなったり、友だちの考えを聞きたくなったり、困っている他者をサポートするなどの関わり。

試行錯誤

失敗を恐れることなく、別の手段やヒントを手がかりに何度もやり直して活動が続けている姿。



事実と解釈に分けて記録する

時間	授業者	子ども	○成果 △課題 ◎改善案 ②疑問
	<p>①を子の声。 ①は①を取。 この時間の中心に 考えた子... 伝えたい?</p>	<p>・手止まり子割は... ・私はこの時間...に目を 向けるわ... ・時計...心... ある。</p>	<p>△叙述から視点を 切り取れる子 ◎視覚支援 理由は 電子教科書も 提示、視覚的 叙述の線も、</p>

研究協議の主役は

をもちに、授業の工夫を語り合う



子どもの姿を事実として
見取り、共有する

子どもの姿(事実)から考える

自分から
発言していた

友達の考えに
反応していた

あきらめずに
考えていた

表情が
変わった

小さなつぶやき
があった

考えを
ノートに書いた



授業の工夫や手立ての
効果を考える



成果や課題を
多角的に検討する



よりよい手立てや
改善策を見出す



事実をもちに、
みんなで授業をつくる

を見取る

- ・成果や課題を共有する
- ・よりよい手立てを考える




対話を通して、授業のよさと課題を明確にし、次の授業改善へつなげる





授業者は「気になるあの子」を視点に 授業をつくる


その子が「わかる・できる・参加できる」授業をデザイン


気になるあの子は
どこでつまづくだろう？
どうしたら安心して参加
できるだろう？

見通しを持てる工夫 

参加しやすい
活動の工夫 

 安心できる
環境づくり

 わかる・できる
手立ての工夫

 小さな成功体験の積み重ね

「気になるあの子」が前向きになれる授業は、
すべての子にとって学びやすい授業になる



参観者は「気になるあの子」を視点に つくった授業がどの子にも効果的だったかを見取る

一人ひとりの学びの姿から、授業の効果を見取る


気になるあの子は
どうだったかな？
他の子にも
よい効果があったかな？

「気になるあの子」 を視点に

見取る視点の例

- 事実を見取る（発言・表情・行動など）
- 友連と関わる姿が見られたか
- 気になるあの子は、安心して参加できていたか
- 学びが広がり・深まる姿があったか
- わかる・できる場面があったか
- 授業の工夫が他の子にも効果的だったか
- 自分から取り組む姿があったか

一人ひとりの姿から、授業の有効性を多角的に検証し、
次の授業改善につなげる



「知りたい」「話したい」「できるようにになりたい」が
生まれる授業づくり

～気になるあの子も前のめりになる授業づくり～